

第17回 ハートインみやぎ

プログラム (13:00~17:00) 開場12:00

13:10~14:30

講演「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」

大熊 一夫 氏 (ジャーナリスト)

1937年生まれ。ジャーナリスト。元朝日新聞記者。1970年都内の精神病院にアルコール依存症患者を装って入院し「ルポ・精神病棟」を朝日新聞に連載。鉄格子の内側の無法を白日のもとにさらした。以来、福祉、医療の分野を中心に高齢者や障害者へのケア、特に虐待の問題に強い関心を継続しつつ、取材してきた。

著書に「ルポ・精神病棟」(朝日新聞社1973)、「新ルポ・精神病棟」(朝日新聞社1985)、「精神病院の話—この国に生まれたるの不幸①」(晩聲社1987)、「あなたの「老い」をだれがみる」(朝日新聞社1986)など多数。近著である「精神病棟を捨てたイタリア 捨てない日本」(岩波書店2009)では精神保健最先進国イタリアからの渾身ルポ。日本の精神保健のあるべき姿を提言している(著書から一部抜粋)。

14:45~16:45

シンポジウム **35万床！これでいいのか精神医療**
～精神障がい者が地域で暮らすために～

●シンポジスト

大熊 一夫 氏 (ジャーナリスト)

梁田 英麿 氏

(東北福祉大学せんだんホスピタル S-ACTチームリーダー)

山本 潔 氏 (宮城精神しょうがい者団体連絡会議 議長)

原 敬造 氏 (NPO法人ハートインみやぎ理事長)

●コーディネーター

前田 ケイ 氏 (ルーテル学院大学名誉教授)

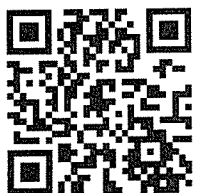
精神病棟は本当に減らせるのか？地域移行は実現可能なのか？今回は当事者活動やS-ACTなどに関わり、「地域で当たり前暮らす」ことを目指し日々尽力する方々にお集まりいただきました。地域が抱える課題、地域に求められるサービスやシステムのあり方について、さまざまな角度から意見をいただきます。

NPO法人ハートインみやぎは精神医療ユーザーや、家族・精神医療・福祉関係者らによって設立された民間有志の活動団体です。(2006.12.8NPO法人化) 1994年より開催してきた精神障害に関する啓発イベント「ハートインみやぎ」は今年、多くの方々にささえられて第17回イベントを開催することになりました。

私たちの詳しい活動内容についてはホームページをご覧ください。

<http://www.heart-in.org/>

メールマガジンはQRコードから登録できます(PCアドレス推奨)。

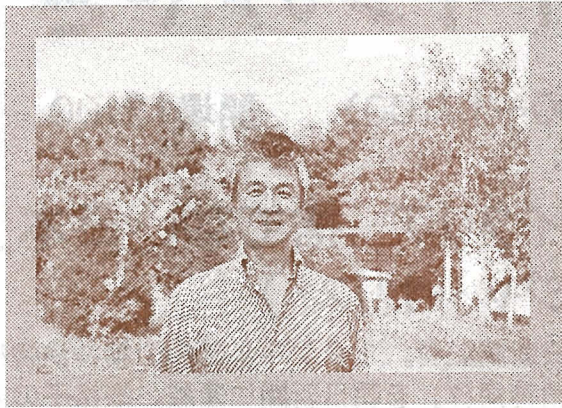


NPO法人ハートインみやぎ

【事務局】仙台市青葉区昭和町2-25HCビル1階カフェ225内

TEL・FAX (022) 274-2622

協賛 東北医薬品協議会



ジャーナリスト。元・朝日新聞記者。1970年にアルコール依存症を装って入院し「ルポ・精神病棟」を朝日新聞に連載。鉄格子の内側の無法を白日のもとにさらした。近著「精神医療を捨てたイタリア 捨てない日本」では精神保健最先進国イタリアからの渾身ルポから日本へ提言。第1回フランコ・バザーリア賞を受賞（著書より抜粋）。

講演 「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」
ジャーナリスト **大熊 一夫 氏**

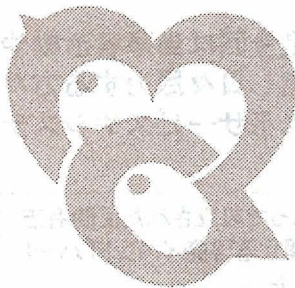
第17回ハートインみやぎ

10月9日(土) 仙台メディアテーク

いまどうしてる？ 今どこにいる？

今年のハートイン、今も入院している人たちと日本の精神医療を考えます。

*車イス席をご用意しています。また手話通訳付きです。



シンポジウム

これでいいのか精神医療！35万人？ ～精神障害者が地域で暮らす～

現在、日本の精神科病床の数35万人。以前として世界的にも群を抜いた数です。すでに症状は改善されていても地域での受け入れ環境が整わないために、いわゆる「社会的入院」を長い間強いられる人たちもいます。

社会的入院の解消は可能か？地域への移行は可能なのか？さまざまな立場の方々に多角的に地域が抱える課題、必要なサービスとシステムについて議論していただきます。

